

同窓会は鳥羽小を応援しています

体育館・特別教室棟
新校舎全景



〔体育館〕



〔教室〕



新校舎・特別教室棟
体育館・ランチルーム

〔ランチルーム〕



〔特別教室〕



校舎改築・体育館・特別教室棟改修工事完成



平成23年3月
第20号
鳥羽小学校同窓会
印刷：(有)平田印刷

新入会員紹介

〔平成22年度卒業生〕





ご挨拶

同窓会長 松宮保彦

(昭和28年度卒)

鳥羽小学校同窓会会員の皆様には、平成二十三年の新春をご家族お揃いで迎えられたこととお慶び申し上げます。

常日頃、当同窓会の運営に対しまして、絶大なるご理解とご協力をいただき誠に有難うござります。

私は、昨年四月から、前会長福谷洋氏の推挙を受け、理事会において選任されまして、自分の浅学非才をも顧みず、伝統ある同窓会長の職をお引受けさせていただきました。誠に微力ではありますが、本会の目的であります「会員相互の親睦と連絡・母校の教育振興への寄与」を念頭に置きつつ努めて参りたいと考えておりますので、何卒よろしくご指導ご支援の程お願い申し上げます。

ふと、我が母校を振り返つてみると、終戦後間もなしの在学でしたので、物資不足でもあり、僕約を余儀無くされた時代でした。私達もそんな生活が当たり前であつたような気がします。校舎と

云えども、老朽化した木造であり、講堂（体育館）を含めて、この字型の校舎に囲まれるような形で校庭が前方に広がっていましたので、百メートルのグラウンドがやつと確保できる程の狭いものでした。下校後や休日は田の畔、畑、土手そして山々を走りまくつて楽しく遊んだ記憶が蘇ります。

以来、今日まで約六十年の歳月が流れました。我が国の社会経済は目覚ましい発展を遂げてきましたが、その反動が人の心の欲望を無限に満たされないものにして來たのではないかと思うのです。

幸いにして、東西小高い山々に囲まれた谷間には一本の川が流れ、その流域には小さな田園が南北に広がる、こんな牧歌的な風情のある校下で育まれてゆく子ども達は、本当に幸せだと思います。将来、心豊かな同窓生に成長してくれるものと願つてやみません。

この度、昨年度より鳥羽小学校改築期成同盟会（会長 飛永新一郎鳥羽を考える会長）が取り組ん

でまいりました体育館の耐震工事並びに校舎等の改築工事が町長様はじめ町の関係者、地元関係者、工事関係者、地区住民の皆さんをして、同窓会会員の皆さんのご支援、ご協力のお蔭をもつて、素晴らしい教育的環境を備えた校舎として完成致しました。同窓会とともに、以前からの懸案事項でもあり、期成同盟会の一端を担当させていただきましたので、完成の喜びも一入であります。厚くお礼申し上げます。



ますようお願い申し上げますと共に、会員の皆様方の今後益々のご隆昌をお祈り申し上げご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

学校長 島 津 静 夫

鳥羽小学校同窓会員の皆様にはますますご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動に対しまして格別のご理解とご支援を賜っておりますこと心からお礼申し上げます。とりわけ今年度は鳥羽小学校の耐震改修・改築に際しまして多大なご厚志を賜り、お陰様で立派に完成した新しい校舎にふさわしい備品を整えることができました。本当にありがとうございました。

今春三月、二十一名の児童が地域や同窓生の皆様に支えられ、第百十二回の卒業式を迎えられますこと、誠におめでとうございます。

何十年もの間に多くの卒業生がこの母校から巣立つて行かれました

が、今年度のように古い校舎から新しい校舎への橋渡しの年に巡り合わせることは偶然とはいいつまでも心に残る喜ばしい出来事だと思います。

私は昭和三十九年度の鳥羽小学校卒業生です。そして、卒業から四十五年ぶりに伝統ある母校の校

長として勤務させていただきながら早一年を迎えようとしています。この一年はお世話になつた方々への感謝と同時に学校をお預かりする重責に身の引き締まる思いで日々を過ごさせていただきました。四月着任と同時に鉄筋校舎の解体が始まりました。実はこの校舎は私が鳥羽小学校を卒業した一年後の昭和四十一年に建設された校舎なのです。私の記憶の中の鳥羽小学校はコの字型の木造二階建てなのですが、目の前でガラガラと崩れていく様を見ているとやはり一抹の寂しさがこみ上げてきました。これからこの校舎はここで過ごした人の思い出として残つていくのだなあ・・・と。

このお正月に、ある同窓生の方から「一月三日、学校開いてますか」と尋ねられました。同級会を開くことになり集合場所が鳥羽小学校ということでした。三日の朝、

私は児童玄関を開け昭和六十一年度の卒業生の皆さんを待ちました。十二月末に完成したこのすば

らしい鳥羽小学校をひとりでも多くの同窓生の皆さんに見ていただきたかったです。二十人の同級生と恩師お二人をお迎えし、学校を案内させていただきました。どなたの提案か、「起立、おはようございます、着席」、真新しい教室で朝の会が始まりました。小学校時代にタイムスリップした皆さんの表情を教室の外から覗いながら、懐かしい母校は常に皆さん的心の中に「ふるさと」としていつまでも生きしていくのだと嬉しくなつてしましました。

地元や近くにお住まいの皆様方はもちろんのこと、遠くから帰郷されました折りには母校に気軽にお寄りください。かわいい後輩や教職員一同心からお待ち



嫌な事も今は楽しい思い出

鳥羽庄司

(昭和26年度卒)

まずは鳥羽小学校校舎の完成、心からお祝い申しあげます。我々の時代とは比較にはなりません

が、今の子供達は本当に幸せな学校生活を送っていると思います。それはさておき昔に思いを馳せ

ちしております。会員の皆様のますますのご健勝をお祈り申しあげご挨拶といたします。

てみようと思ひます。

私が小学校に入学したのは、昭和二十一年四月。桜花舞い盛るなか、校門をくぐるとコの字型校舎があり正面に玄関、その左側に授業の終始を告げる鐘があり、小使いさんがその担当をしておられました。又、校庭の隅には二宮尊徳の石像がありました。我々生徒は講堂の窓側に肋木（ろくぼく）がありこの肋木に思い出が残つておられます。寒い日等は特によくやつたゲーム「おとし安い」であります。

下級生がこの肋木に上つて待ち、上級生が馬となつて下級生を乗せて早く落とした方が勝ちと言うゲームで壮絶な戦いをやつたものです。鼻血を出すのは当たり前で馬に乗る一・二年生は恐ろしく、いやな思い出として残っています。

又、大変だつた思い出の一つに稻子（イナゴ）とりがあります。布の袋に竹箇を付け稻子を捕つては入れ、布がいっぱいになるまで捕らされたのを思い出します。早晨から半日捕つた記憶もあります。学校ではそれを集めて小使いさんが大釜で蒸し校庭にむしろを広げその上で乾燥させて学校は幾らかの足しにしたのでしよう。全

物の無い時代でしたから通学はわら草履だつたし雪が降れば被りござやマント、後に番傘が普及してきました。運動会は裸足で、後にスッポンたびを履く人が増えてきました。教室の暖房は薪ストーブで焚き付けの枯れ柴を各自輪番制で持つて行つたものです。弁当を暖める為にそのストーブに乗せてたり横に並べたりしました。暴れると弁当が滑り落ちてひっくり返つたりしました。ほとんどが日の丸弁当だつたと思います。楽しかった思い出もあります。娯楽の少なかつた時代であつたので講堂での映画は何よりの楽しみがありました。悪者をやつつける場面はみんなで手を叩いて喜んだし悲しい場面では皆泣いたりしま

明の長い物になかなかこな題
いましたし、海人草による回虫駆
除が度々おこなわれ廊下にはよく
回虫が落ちていた記憶があります
す。又、DDTの散布消毒を女の
子がされていて頭を真っ白にして
いたのを覚えていました。

した。村人達は素朴で純真だつ
のでしよう。窓からの風にス
リーンが揺れれば画面も共に揺
ます。それでも文句一つ言わず
鑑賞しました。

思い出は尽きませんが苦しい
い出や兼任事は今となれば壊か

再今

內
收
平

たのである。

昨秋、一度と会えないと思つていた男女二名の級友と半世紀ぶりに再会し皆が涙した。戦後六十五年、この平和な世の中ではあり得ないことではあるが、現実にそのようなことがあつたので感動が増したのだ。

その順子さんについては、伊勢の宴席で岐阜県から久々に参加した旧姓鳥羽秀美さんから、「彼女とは文通を続けており、現在は東京で暮らしている」と聞いて一同は啞然とした。

この二人は大鳥羽出身の旧姓重光順子さんと奥田満夫君であり、鳥羽小学校を卒業し上中中学校で一年間学んだ後に転校したのだが、地元にいる者は誰もその後の消息を知らないと思い込んでいた。それが何と昨春の還暦伊勢参りがきっかけとなつて住所が判つ

また、奥田君であるが、当時、
彼のお父さんが大鳥羽駅長であつ
たため駅の官舎に住んでいたの
だ。しかし、彼も又その後の消息
は不明であつた。それが、伊勢参
りの後、地元組が五年・六年生の
時の恩師高橋宗一先生を訪問した
際、「奥田君は神奈川県に住んで

おり賀状が毎年来ている」とお聞き思わず仰天。この悶々とした半世紀は何であったのかと皆は反省しきりであった。

そんなことから、麻生野の谷口富保君（同級会の終身会長）を中心とするこの地元組は「これまでの空白を埋めたい」という思いを実現するため歓迎会を企画した。歓迎会は、この二人のほか、恩師や遠く岩手県に在住している三生野出身の旧姓西川佳代子さんを招いて始まつた。物故者への黙祷の後、各自の近況報告やカラオケ、ダンス、車座となつての深夜の会話など、風体は確実に老いてはいるものの気持ちはいつの間にか當時の丸坊主やお下げ髪。笑いあり涙ありの実に楽しいものとなつた。ちなみにその恩師は、「熱情と自由平等、公平無私、厳しい中にも親切」更には「不遇な子を大切にする」という教育信条を持ち続けられ、我々を指導して下さつたのである。その教えを素直に思つたながら還暦まで生きてきた同級生の面々は当然ながら純粋で他人の気持ちが分かる者ばかりだ。

級友と再会し話をしているうちに小学校時代のことが鮮明に思い出された。私は海土坂で生まれたので二年生までは麻生野分校へ通

ながら過ごしていたが、四年生ぐらいからは徐々に友達も増え学校へ行くのが実に楽しかつた。この頃は、道路はジャリ道でホコリが舞い、制服はツギだらけで牛肉などは喰うことがない時代であつたが、貧しい環境の中で助け合い競い合つて行つた遠足や臨海学校、運動会は今も脳裏にしつかりと残つてゐる。

時の経つのは早いもので、この思い出多き母校へ孫が通うようになつた。同じ校歌を孫と唄える喜びをしみじみ感じながら、通学児童の「見守り隊」として大鳥羽木工の辺りまで低学年の児童を迎えて、雪の上を一直線に登校しに行つたり、パソコンで「鳥羽つ子日記」を読んだりしている。

この孫も還暦を迎える頃には世の中が随分変わつていることと思うが、私が経験した劇的な『再会』の感動をきつと理解してくれるだろう。

（持田在住・税理士）

鳥羽小学校を卒業して47年、「ふるさと」を離れて41年、月日のたつのは早いもので、還暦を迎えるとしています。

今回、会報誌掲載のお話を頂き、私にとって「ふるさと」とはどんな場所かを考えるために、少し小学校の頃を振り返つてみました。

当時、私は大鳥羽に住み皆から「あつちゃん」と呼ばれ、仲の良かつた「Mちゃん」といつも一緒でした。一番の思い出といえば登下校です。あの頃の冬は1m近く雪が積もり、テレビで放映された「快傑ゾロ」の様なマントを着て、雪の上を一直線に登校し、下校時には、雪の上に倒れこみ自分で身体の跡を残し遊んでいました。

そんな父は今年33回忌を迎えた。家の前には、父が作ってくれたスキー場（？）や、かまくらがあり、父の手作りの竹スキーで遊びました。父は頑固で口数が少なが、私達の為にいろいろとやつてくれた事、今となつてはとても懐かしく思います。



ふるさとⅡ母

岡田厚子
(昭和38年度卒 旧姓 山崎)

学校生活で印象に残つている事は、熱心な担任の先生のおかげでクラス全員がそろばん検定に挑戦できた事、鼓笛隊でベルリラの担当になりとても嬉しかつた事です。

また音楽発表会で「ペルシヤの市場にて」「剣の舞」を演奏した事は、今でもその曲を聴くと当時を思い出します。母にピアノのレッスンにも通わせてもらい、音楽が大好きでした。

当時は兼業農家でしたので、父と母は農繁期になれば日中は田んぼの仕事、家に帰れば夜なべ仕事をして私たちを育ってくれました。

当時は農繁期になれば日中は田んぼの仕事、家に帰れば夜なべ仕事をして私たちを育ってくれました。耳が不自由になる前はカラオケも楽しんでいました。

私の娘の結婚が決まり、報告に

とを今改めて感じています。

訪ねた時には鯛と赤飯を用意して

祝ってくれ、結婚式にも出席して

くれました。いつも、家を留守に

する事を嫌い、人に迷惑をかける

事を嫌う母が思いきって出席する

事を決断してくれた時は、本当に

嬉しく思いました。その娘も、や

はり音に触れている事が好きで、

社会人になつた今も市の楽団に所

属しクラリネットを吹いていま

す。

母のいろんな物事に対する興味、姿勢、感じ方など母から私が娘へと引き継がれているこ

子供達が小さい頃は、自分の身体を休めに帰つて「ふるさと」ですが、最近は私達が訪ね顔を見せる事、とても喜んでくれる母の顔を見たくて、また老いていく母のいろんな話を聞きたくて「ふるさと」に帰つています。

上黒田に帰るたびに、山が崩され、田畠がなくなり、墓地までもが移動され景観が変わつてきますが、私にとつての「ふるさと」は母が元気でいてくれる限り変わりません。

(愛知県 在住)



思い出と雑感

高 橋 繁 応

(昭和42年度卒)

私の書棚に『すりばち』というタイトルの古びた卒業記念文集がある。ガリ版刷りの黄ばんだわら半紙を綴じた文集である。当時の同級生は28人だった。『すりばち』の名前の由来は鳥羽谷の地形である。当時の同級生はまとまりがよくて、今までにも何度か同窓会を

に出かけ、冬は雪の中で鳥を追いかけた。山のなかに大人の人が仕事掛けたくぐつとよばれる鳥を捕獲する罠を見様見真似で作つて、実際に鳥が獲れたときの感動は忘れられない。学校での休み時間には昨日はどこで何を捕つたとかなんとかそんな話で盛り上がつた。(鳥獣保護法違反だと思いますが、時効で許してください)くぐつの餌にと山にハゼの実を取りに行つてかぶれてしまい、ひどい顔をして登校したこともあつた。生活科などという教科がなくとも毎日が生活科のようだつた。そんな自然の中での経験から私たちはたくさんのこと学び、身につけていつたのだと思う。

小学校時代にはそんなことばかりしていて、あまり勉強が好きでなかつた自分が、学校で勉強を教える教師という職業について、昭和57年度から6年間鳥羽小学校に勤務させていただくことになつた。いいかげんな教師だつた私の教え子達もそれぞれ立派に成長し、各所で活躍している。その中の一人が、神戸のホテルのレストランでシェフをしているという話

理不尽な行動をとる人達の事件がたびたび報道されるのを聞く度にそんなことを思う。こう考えるにと鳥羽谷は子どもが健全に育つには本当にいい環境なのではないだろうか。

獣害防止柵で鳥羽谷一円が囲まれていくのを見ていると、自然と人間が隔絶されるようで、一抹の

くれた。夜の9時ごろに彼の仕事が終わつてから、ホテルのラウンジにさそつてくれて、六甲の夜景を見せてもらひながら、ワインをいただくことになつた。彼も釣りが好きで毎日鳥羽川で釣りをしていた話を聞いて、そういうえば鳥羽川で釣つた大きなナマズを教室に持つてきて、水槽で飼つてたけな、という話になつた。ある日、算数の時間に私が一生懸命黒板に向かつて説明していると、「あ、食つた。」との大きな声。休み時間にカエルを捕つてきて、教室のナマズがいる水槽に入れていたのだが、授業中も算数はそつちの内で、水槽ばかり見ていたやつがいたよな、という思い出話がなつかしかつた。

『人は自然の中でのびのびといろいろなことを経験しながら育てば、自ずと人間らしく育つていいのではないかだろうか。』

不安と寂しさを感じるが、イノシシやシカの食害を考えるとそれもしかたのないことなのだろう。しかし、昨年末鳥羽谷にやつてきて滞在しているコウノ



鳥羽谷ブランド

島津秀樹

（昭和46年度卒 旧姓 畠中）

今年は近年はない大雪になり、先日通学路をショートカットして田んぼの中を歩いている子供の姿を見かけました。“今の子供も同じことするんやなあ”と学校に通っていた頃のことを思い出していました。

須崎橋の下で隠れて、下校途中の女の子に雪だまを投げたりもし

ました。肥料袋やビニール風呂敷でそりすべり。かまくらや雪たるを作り、雪合戦。かまくらの中でも飲み食いすることの樂しかつたことや天井の部分が透けてきれいな青い色に見えたこと。雪が降るとわくわくしました。

この原稿を依頼されて、『はて、何を書こうかな?』と考えたときに、ふと『半世紀』という言葉が思い浮かびました。私は生まれてから一度も鳥羽谷を離れたことがありません。51年も住んでいるのに、あえて鳥羽谷の自然や文化、環境、産業そしてここに住んでい

の。上手に付き合つていきたいです。温暖化の影響で雪が少なくなると子供の遊びも変わつてしまします。雪が降れば、子供は自分で遊びを見つけることが出来ます。まだまだ自然が多く残つてある鳥羽谷で、自然の中から遊びを見つけることが出来る環境を少しでも長く残していくあげたいもので

私たちちは鳥羽谷に育まれて一体化して生活しています。“あります”や“と”と言われる集落や地区の行事、あまり使われなくなってきた鳥羽弁。鳥羽谷の風土が創り出す鳥羽もんらしさ。それらすべてが鳥羽谷ブランドだと思います。

やつてきました。鳥羽谷もこれからどんどん変わっていくでしようが、鳥羽つ子が鳥羽もんらしく巣立つてくれて、鳥羽谷ブランドを大切に守つていつてくれるよう応援できることを探していくたいと思います。



料理とドボン

孝哲下森

(昭和58年度卒)
哲孝

二宮金次郎の立つ小さな池で息を殺して水中を覗き込み、自作の針金で作った針に給食のパンを付けて、ドボンの鼻先に落とし込んでいく。相手は仕方ないから食べてやるという感じで、ゆつくり口を開けパンをくわえる。僕は小さ

な興奮を抑えて糸を引く。やる気のない顔からは想像出来ない引きで楽しむも、カエシも付いていないやわらかい釣り針はのびて返つてくる。ドボンは位置が決まっていくかのように底へ帰り、僕はチャイムで教室へ帰る。常に釣り

る人のことを考えたことのない自

てきました。

が頭の中についた少年だつた。日曜日には、T.V.で釣り吉三平を見ていた仕掛けを真似てみたり、秘密のポイントを探して一人でもよく川に向かつた。自分だけのポイントを持つことがすごくうれしかつた。今は珍しいカワセミも沢山飛んでいた。行けば絶対釣れるのがナマズで、とにかくよく釣つた。夏休みの自由研究でもナマズの釣れたポイントやその詳細を発表したり、教室でもナマズを飼わしてもらっていた。学級委員長になれば、行事は釣り大会にするなど話し出したら、キリがない釣り好きだつた。今、鳥羽小学校の思い出を書こうと記憶を辿るが、鮮明な記憶は遊びの部分だけのようだ。遊びは川だけでなく山中の基地作りもタフな遊びだつた。立地条件と計画、皆との協調性が大事で完成しない場合も多々あつたが、完成して皆で大鳥羽を見下ろし食べる弁当は格別だつた。山に川、田んぼ、小学校に分校、寺や宮さん、それが一枚の風景画のように自分の頭には残つていて、上手く言えないが都会の小学生には解らないうだろ、住人までを含んでの一つの色や二オイなど、感受性を高める材料が鳥羽には多くあつたうな時間だつた。少しオーバーに思われるかもしれないが大鳥羽を

出てから23年間がたつた今、小学校時代を思い返してみて素直に出了感想だ。

現在は、神戸の六甲山ホテルでコックをして働いている。料理人という職業についたきっかけは、高校を中退し、熊川のヌクイ釣具店で働くと自転車に乗つて面接に行き、「兄ちゃん自転車じやむりやわ」と断られ、バイク代を稼ぐために若狭カントリーでボーリとして働き出し、調理場の洗い物を手伝つた時につまみ食いをさせてもらつた鴨のローストに感動したからである。単純にうまい物が食えるということで料理人を目指し、今ではコックが天職だと感じる。料理人をやつていて鳥羽で成長していく少年時代の記憶は体と頭に自然と蓄積され、それが今は財産として残つている。鉄砲で撃たれた野鴨の野性味のある鉄分の多い味や、じいちゃんが小屋でしめたぶつ切りのニワトリの濃いスープの味、酸っぱく青くさいトマト、雪の中の甘いハクサイ、味だけでなく自然が作り出す四季

鳥羽を出てからの年数の方が長

くなつた今、帰省すれば少しも変わつていらない友達や周りの人達の温かさを感じ、またこの同窓会報の話を持ちかけてくださつたことにも感謝し、自分はトバモンだと実感している。4人の子供には、個性を活かして育つていつて欲しい願いがあるので僕の体験談が少しでも役に立てばうれしいし、田舎があることの幸せをいつか感じ

てくれればうれしい。

最後に昭和58年度卒の自分の担任、高橋先生がホテルに宿泊された、バーで昔話を肴に一杯やることが出来た。これも田舎の小さな学校ならではの出来事だと思う。鳥羽谷の皆さん鳥羽小学校ありがとうございました。

(神戸在住)



還れる場所

川 島 侑 実
(平成7年度卒 旧姓 長谷)

私は今愛知県に住んでいます。去年の始めに大学卒業後からお世話になつていていた会社を辞め、その後留学、転職、結婚と、正月とお盆がいっぺんに来たような、大変慌ただしい1年を過ごしました。そしてちょうど一息ついている時にこの同窓会報への寄稿のお話をいただき、改めて自分の原点を振り返るような気持ちです。

愛知の友人達には私が「実家好き」と思われていますが、愛知にいて「そろそろ帰りたいなあ」と思う時、思い浮かぶのは家と鳥羽谷の風景です。鳥羽川を挟んで広がる田畠と集落の家々、山に挟まれ流れる緩やかな時間、草木や土の香り、音、そして気軽に声をかけてくれる鳥羽の温かい人たち。忙しい日々がひと段落する度

私が鳥羽小学校を卒業して、はや14年が経ちました。しかし忙しい日々の中にも時間を作つては、しそつちゅう一人で帰省していま

にそれらを思い出し、心身をり支度をする事になるわけです。

お盆と正月に帰省すると、ほぼ毎回長江の行事に出席します。墓参り、お寺詣り、お正月には年賀会・・・外を歩けば知った人に会い、「ゆきみちゃんかー！お帰り！」と、快く迎えてくれるのが心地よくてなりません。鳥羽を離れてから9年が経とうとしていますが、年々望郷の思いが増し、ふとした時に私が幼いころに見てきた情景がありありと浮かびあがることもあります。

さて、先日愛知と長崎出身の友人と話をしていた時のこと。鳥羽小学校にあつた縦割班の制度を話したところ、大変驚かれ、また感心されました。各学年を縦でいくつか割つて班を作り、一年間はその班で、運動会だけでなく日々の給食、掃除を一緒に行つたものでした。それらを通して下級生は上級生に遊んでもらつたり世話をし、もらつたり、随所でいろんな事を教えてもらえます。自分達が大きくなつてからは逆に下級生の面倒を見たり、6年生になると班の運営にも携わつていきます。縦割班活動を通して様々な活動をすることになり、人間関係も幅広くな

ると共に、責任感も育つていったように思います。

あれから教育制度に変化があ

り、今ではそういう活動に十分な時間取るのは難しくなつてい

るかもしれません。しかし、縦割

班は子どもの成長を上手に手助けする、素敵な制度だつたと思います。また、ランチルームという縦割活動に一役買つた場所があつたのも、1学年1クラスの、アットホームな学校だつたからかもしれません。自分がそんな鳥羽小学校

で学び、鳥羽谷の人や空気に育てられた事をとてもありがたく思っています。

この度鳥羽小学校が新しく建て直されるところで、もう思い出の教室はどこにもないのだと思うと少し寂しい気持ちになります。しかし人が成長し変わつていくよう、小学校も、鳥羽谷もゆつくりと変わつていくのでしよう。そ

（一日どれくらいあるんやろう・・・）

日々の中での選択にぶち当たつたとき、私は自分の根にあるモットーを掘り出します。それは、『いくつかの選択肢で迷つたら、しんどい道を選べ。それは大抵、正解である』というものです。鳥羽小学校のときについ・行動の基礎が作られ、上中中学校で明確になりました。

私は三田で生まれ、祖父母、父母、姉、妹の7人家族です。父も母も働いていたので、小学生の時は、家に帰る時間に迎えてくれたのはいつも祖父母でした。そのたまごは「宿題をしてこなかつた」ことが一度もなかつたように思います。なぜなら、いつも祖父母から勉強を見られているような気が



鳥羽のDNA

田 邊 美 貴

（平成10年度卒）

人生は、選択の連続です。25年間生きてきて、私も少ないながら様々な選択をしてきました。入るクラブ、受験、就職、その場その場での行動はもちろん、食べ物や二度寝の格闘など、大きな選択もあれば、小さな選択もあります（一日どれくらいあるんやろう・・・）。

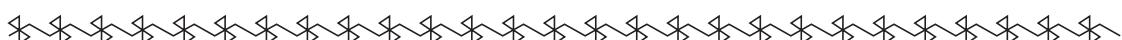
日々の中での選択にぶち当たつたとき、私は自分の根にあるモットーを掘り出します。それは、『いくつかの選択肢で迷つたら、しんどい道を選べ。それは大抵、正解である』というものです。鳥羽小学校のときについ・行動の基礎が作られ、上中中学校で明確になりました。

さらに大きく成長させてくれたのは、三田の人達から「褒めて」もらえたことです。学年が違う子供だけでなく、お年寄りとも気兼ねなく挨拶を交わしたり世間話をしたりできることは、本当に鳥羽の良いところです。「美貴ちゃん、頑張つとるらしいねえ」なんて言われたら、幼い心でも妄想は広がります。「なんで知つとんやろ」が「家族が言うたんやろか」「それとも先生？」なんて。何気なく（何も知らず）言ってくれた言葉でも、「頑張つたね」と言われたら嬉しくてもつと頑張れる。そして、いつもどこで誰に見られているか分からぬから、自分を正せる行動をとる。そして、褒めてもらえる。とても素敵なスペイナルだと思います。

中学生になると、私はソフトボール部に入部しました。とつても厳しく、とても熱いクラブでした。技術面もですが、いつも言っていたことは人全員が、私たちを応援したくなるようなチームになることが目標間性を磨くこと。試合を見ているの一つでした。先生は弱い心に負けた瞬間を見逃しません。声がなかなか出せない時、トンボを相手に任せてしまつた時、掃除を丁寧にしなかつた時…。その時言われていた言葉が、『しんどい道を選べ』。この言葉が私の中にストンと落ちたのは、小学生のころから、自然としんどい道を選ぶということがどういうことか分かっていたからだと思います。体力・気力を使つて頑張ると、認めてもらえるということを。

選択で悩んだとき、みなさんはどんな基準で決めますか？好きなこと？損得？しんどい道？私は、「しんどい道を選べる」のは上中・鳥羽のDNAなんじやないかなあと思っています。私は今、京都府の中学校でしんどい道を選べる人間を育成中です。上中・鳥羽のDNAをどんどん広めていきま

（京都府在住）



学校の近況

【学年別児童数】

	男子	女子	計
1年	8	9	17
2年	15	13	28
3年	10	8	18
4年	8	7	15
5年	12	11	23
6年	11	10	21
計	64	58	122

【平成22年度 教育目標】

めあてをもって、

心豊かにたくましく生きる鳥羽っ子の育成

- ・自分で考え、よりよい行動ができる子
- ・自他のいのちを大切にする子
- ・しっかり聞き、はっきりはなす子

【集落別児童数】

	男子	女子	計
大鳥羽	10	5	15
上黒田	4	3	7
麻生野	5	5	10
海土坂	3	1	4
三生野	2	3	5
無 惡	1	6	7
三 田	4	5	9
小 原	8	8	16
南	4	1	5
山 内	9	2	11
持 田	1	2	3
長 江	2	6	8
朝 霧	11	11	22
計	64	58	122

【主な行事】

4月	入学式・始業式・身体計測・交通安全教室・学校経営総会
5月	春季遠足・内科検診・学力調査・PTA奉仕作業・鳥羽リンピック
6月	避難訓練・プール清掃・ALT学校訪問・前期校内研究会・プール開き
7月	民生委員と語る会・教育懇談会・終業式
8月	PTA奉仕作業
9月	始業式・自由研究発表会・鳥羽地区体育大会・秋季遠足
10月	町小学校陸上記録会・敬老会・後期校内研究会・修学旅行・校内マラソン大会
11月	小中学校音楽発表会・特別懇談会・就学時健康診断
12月	人権集会・学校経営総会・子育て講演会・終業式
1月	始業式・学校給食週間・鳥羽っ子学習発表会・6年上中中体験入学
2月	1, 2年校外学習（そり）・スキー教室
3月	6年生を送る会・卒業証書授与式・修了式

平成21年度 鳥羽小学校同窓会決算書

<収入の部>

(単位:円)

	本年度予算額	決算額	比較増減	備考
会費	430,000	428,000	△2,000	1000円×428戸 (2戸減)
協力金	9,100	9,100	0	職員700円×13人
寄付金	0	0	0	
雑収入	896	81	△815	利子他
繰越金	37,004	37,004	0	
合計	477,000	474,185	△2,815	

平成22年度 鳥羽小学校同窓会予算書

<収入の部>

(単位:円)

	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備考
会費	430,000	428,000	△2,000	1,000円×428戸
協力金	9,100	9,100	0	職員700円×13人
寄付金	0	0	0	
雑収入	896	86	△810	利子他
繰越金	37,004	39,214	2,210	
合計	477,000	476,400	△600	

<支出の部>

(単位:円)

	本年度予算額	決算額	比較増減	備考
会議費	25,000	21,400	△3,600	役員会、理事会、編集委員会
事務費	40,000	38,671	△1,329	印刷インク・マスター用紙等
事業費	400,000	374,900	△25,100	
会報	130,000	106,540	△23,460	会報第19号、郵送料
教育振興	270,000	268,360	△1,640	児童教育活動、スキー教室補助
予備費	12,000	0	△12,000	
合計	474,185	434,971	△42,029	

<支出の部>

(単位:円)

	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備考
会議費	25,000	25,000	0	役員会、理事会、編集委員会
事務費	40,000	40,000	0	印刷インク・マスター用紙等
事業費	400,000	400,000	0	
会報	130,000	130,000	0	会報第20号、郵送料
教育振興	270,000	270,000	0	児童教育活動、スキー教室補助
予備費	12,000	11,400	△600	
合計	477,000	476,400	△600	

刊することになり、同窓会会員の方々は、昨年十二月三十一日に降り出した雪は一ヶ月ほぼ毎日のように降り、私たちの母校も一面雪に覆われました。ですが、その雪の下で小学校の耐震改築・改修工事が施工され、すばらしい学校に生まれ変わりました。

編集後記

最後にこの会報が益々充実していくよう今後ともエッセイ等ご投稿をお戴きますようお願い致しますとともに、会員皆様の益々のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。

(岡本記)

平成22年度 鳥羽小学校同窓会役員名簿

役員	集落	氏名
会長	大鳥羽	松宮保彦
副会長	三田	岡本嘉樹
"	無悪	竹内睦子
顧問	三田	池上矩平
"	長江	清水治一
"	三田	小林銀右エ門
"	無悪	兼松勉
"	三田	福谷洋
"	学校長	島津静夫

幹事	山内	宇野一美
"	上黒田	澤本啓一
"	三生野	畠中泰信
"	大鳥羽	檜鼻幹雄
"	無悪	福谷功
"	長江	小川倖史
"	南	東弥千代
"	大鳥羽	檜鼻ふじよ
監事	麻生野	香川哲夫
"	海土坂	竹内洋子
事務局	教頭	下南貢

役員	集落	氏名	氏名
理事	大鳥羽	畠中秀行	松宮美智子
"	上黒田	山崎智子	澤和弘
"	麻生野	三宅清	三宅治和
"	海土坂	竹内久典	西山八弘
"	三生野	吉村和夫	西川正展
"	無悪	橋本良幸	岡野京一
"	三田	田邊喜代志	池上正行
"	小原	田辺秀昭	福谷明夫
"	南	東正浩	若新康彦
"	山内	宇野高男	宇野啓子
"	長江	瀬間達雄	谷口文代
"	持田	大下宗一郎	三宅照彦
"	朝霧	桧鼻壯栄	鳥羽角栄

鳥羽小学校校舎改築・体育館・特別教室棟改修工事の歩み



4月 校舎（裏側）解体始まる



4月 校舎の様子（正面側）



4月8日 校舎解体（正面側）



4月15日 更地



5月中旬 校舎の様子



6月 新校舎【教室棟】工事



4月 体育館改修始まる



6月 体育館工事見学



体育館床工事



7月 体育館外壁工事



8月 体育館内部工事



7月・8月 特別教室リフレッシュ工事



9月下旬 教室棟（正面）



9月下旬 教室棟内部工事



10月 仮設校舎と校門



11月 教室棟工事



11月 教室棟内部工事



12月 特別教室棟・教室

鳥羽谷で育む、心豊かな鳥羽の子